



《将来に向けた取組方針》

関西電力グループは、生物多様性の重要性を認識し、事業活動に伴う影響を適切に把握・分析・評価し、生物多様性の保全に取り組んでいます。

今後も、生物多様性に密接に関連する気候変動への対応、資源循環等を含めた統合的な環境活動の推進による社会課題の解決を通じて、持続可能な社会の実現を目指します。

生物多様性の保全に配慮した事業活動（取組事例）

● 発電所周辺の動植物生息・生育状況の把握

奥多々良木発電所周辺では、これまででも在来種の保護等に取り組んでおり、発電所周辺のモリアオガエル等動植物の生息状況把握を行いました。



奥多々良木発電所周辺ピオトープ

京都府木津川水系に位置する水力発電所周辺の調査では、特定外来生物による影響も受けておらず、生物多様性の高い群落が維持されていることが確認されました。



木津川（笠置山からの眺望）

● 環境影響評価の実施

電気事業における発電所建設にあたっての環境影響評価では、法制化される前から蓄積してきた多くの知見を活用するとともに、各段階において地域のみならず、地方公共団体、国の意見および勧告を受けるなどして、適切に実施しています。

● 黒部ダム周辺の在来種保護

黒部の入口の扇沢駅では、黒部に生息していない植物の種子が観光客の靴底から持ち込まれないように、種子除去マットを敷設して外来種の侵入を防いでいます。



黒部ダム



種子除去マット

● 自然の森づくり

発電所では自然に近い森をつくるため、地域に適した樹種の苗木を植え、地域本来の生物多様性を守るための環境づくりに努めています。



エコロジー緑化による
発電所緑地